

ペットボトルがレンズに…

ペットボトルが原因で、太陽光が一点に集中して出火する「収れん火災」が今月上旬、東京都目黒区で発生していたことが東京消防庁の調べで分かった。収れん火災は、太陽の高度が低く、日差しが部屋に差し込みやすい冬場に発生するケースが多く、同庁は注意を呼び掛けている。

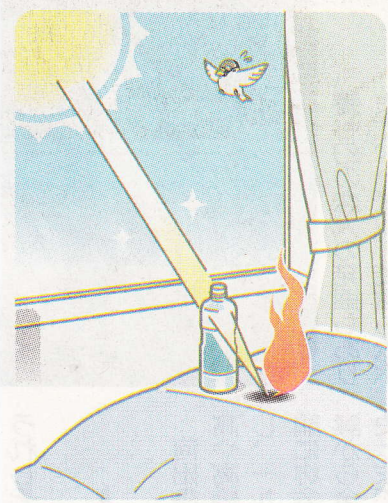


冬場に注意 収れん火災

目黒のアパートで発生

火災は八日午前十一時三十五分ごろ、目黒区中央町のアパートの男性(40)宅で発生。室内に敷かれたままの布団を焼いた。男性は出勤して不在で、隣人が警報器の音に気付いて一―九番した。東京消防庁が原因を調べると、布団の上にあった水入りのペットボトルがレンズの役割

↑
水入りのペットボトルによる「収れん火災」で燃えた布団―東京都目黒区で(東京消防庁提供)



をして太陽光を集めていたことが判明―イラスト。同じ条件での燃焼実験では、黒い布の場合は一分もかからず、白い布の場合は二―三分で、ともに煙が上がった。男性は「突然の火災でびっくりした。ペットボトルが火災の原因となるとは、思いも寄らなかった」と話す。同庁によると、収れん火災は眼鏡や水槽、水晶球などでも発生する。管内では二〇〇五―〇九年の五年間に二十五件あり、今年には既に二件目。同庁は「家の中にレンズになるようなものがないか、見回してほしい。家を長時間空ける時は、カーテンを閉めるなどの対策を」としている。